

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

も く じ

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| □ 東近江三方よし基金視察報告…………… 1P | □ ベティ基金交流会開催報告…………… 3P |
| □ 日本福祉大学SL報告会…………… 2P | □ 知多市職員研修報告…………… 3P |
| □ 強度行動障害講師紹介…………… 2P | □ インフォメーション…………… 4P |

東近江三方よし基金視察報告

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今期は中長期ビジョン〈0歳から100歳の地域包括ケア実現のために〉の解像度を上げようと、理事に迎えた社会福祉法人むそう理事長の戸枝陽基氏と起業支援ネット代表理事の久野美奈子氏のお二人と、知多地域の若き研究者、日本福祉大学の菊池遼先生にも加わっていただき『知多のこれから』について話し合いを始めています。ここからは、多様な人が参加する市民活動が再びボランティアの裾野を広げる役目が担えるためには、地域密着型コンサルティング機能を備え、おもしろい活動を生み出す自由な発想が必要だと仮説を立てました。そこで、民間の志を支援する寄付×地域の未来への投資・応援を地域の課題解決へつなげ、まちづくりの循環を可能にした東近江三方よし基金（滋賀県東近江市）へ12月10-11日に訪問、基金の設立経緯や取組内容の説明を受けました。また現地の活動も視察、基金との関係についてお話を伺いました。以下、久野理事より寄稿いただいた視察レポートをご高覧ください。市野恵



三方よし基金 山口美知子さん

古くは万葉集の舞台となり、中世以降は市場町や門前町に連なる交通の要衝の地として栄えた東近江。鈴鹿山系から琵琶湖へと連なる流域が一つの地域となり、森・里・川・海の恵みと循環がその暮らしを支えてきました。近江商人の「三方よし（売り手よし・買い手よし・世間よし）」の理念は、今日においても持続可能な発展のあり方を示すものとして注目されています。

今回のリーダー研修では、このまちで新たな資金循



「地域の地味なことを三方よし基金が見つけてくれる」とTeamNorishiroの野々村さん（大萩基地にて）

環の要となっている公益財団法人東近江三方よし基金と、そこから資金支援を受けて地域で活躍する3つの事業所（活動）を訪問しました。

東近江三方よし基金は、自らの役割を「外から資金を調達すること・地域で回すこと・流出を止めること」と位置づけ、各種助成事業とともに地元信用金庫と連携したコミュニティ融資や、市民等から出資を募り事業を実施した後、その成果評価に基づいて行政から交付された補助金を出資者に償還するSIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）など、様々な手法で資金循環をきっかけに人と人、人と自然をつなぐ事業に取り組まれています。助成先の現状をしっかりと把握したうえで、全体を俯瞰して本質的な問いを投げかけ、手も足も動かしながらプロジェクトを進めていく姿勢には、伴走支援の本質が宿っていると感じました。そして、資金に託された想いと厳しさを真摯に受けとめ、日々の実践に活かしている助成先のみなさんの言葉には、リアリティと力強さが溢れていました。

まちづくりにおいて「顔の見える関係が大切」とはよく言われる言葉ですが、個人として顔の見える関係を築くことは責任の矢面に立つことでもあり、ついわたしたちは、組織や立場の陰に身を置きたくなります。東近江地域の総働体制図には、地域のキーパーソンの個人名が記され、機能を越えた存在としてつながり、支え合う様子が伺えました。持続可能な地域づくりは、わたしたち一人ひとりがどう在るのか、どう生きるのかが問われているのだと深く感じる2日間でした。理事 久野美奈子

■日本福祉大学サービ斯拉ーニング報告会

12月13日、日本福祉大学美浜キャンパスにて、夏期に行ったNPOや社協での活動から見えてきた課題や関心事について、後期の授業で深く掘り下げ、研究した内容について学生からの報告がなされた。

〈大林由美子ゼミ〉

南粕谷ハウスでの活動を通して、住民主体の地域活動に着目。利用者へインタビューを実施し、ご飯が食べれていない子を発見した経緯から、南粕谷ハウスの子

ども食堂が始まっていることを説明した。住民同士が地域の困りごとを理解していることにより、地域活動の主体性が生まれており、この



研究報告を行う学生の様子

ような取り組みが全国に広がると、地域共生社会は実現につながると考察した。

〈杉浦公紀ゼミ〉

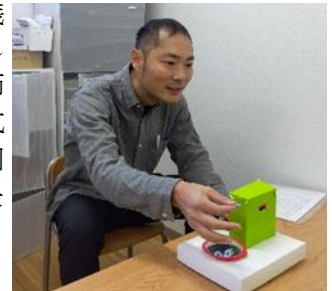
社会福祉協議会での活動を通して、若者の地域参加率が低いことに着目。若者が地域参加しないのは、①時間がない②情報がない③興味がない④人と会うのが億劫などの理由があると説明。解決策として、①学校でのフィールドワークの機会を増やす②短時間でできる地域活動を増やす③オンラインゲームを活用した交流を提案し、若者が地域活動に参加するメリットとして、仕事に対する展望が広がると結論付けた。

〈藤井渉ゼミ〉

障害者支援活動を通して、1人暮らしをしている障害者が少ない現状を把握。障害のある人が自立した生活を送るためには何が必要かをテーマに掲げた。支援の手があることで自己選択肢が広がるため、①当事者の理解②環境づくり③コミュニティを形成していくことが必要であり、障害のある人たちとの信頼関係を形成していくことが重要だと語った。まとめとして、藤井渉先生は、「本学が追及するふくし（ふだんのくらしのしあわせ）が何か？ということをもテーマに活動から得た課題を研究できていた。人との結びつきを得ると地域参加はより発展的になる。今後もサービ斯拉ーニングから得た学びを自分なりに考えて欲しい。」と学生に向けて語った。（山森）

強度行動障害支援者養成研修 講師紹介

当法人主催「強度行動障害支援者養成研修」では、支援現場の実践者を講師として招聘しています。そんな講師陣の横顔をリレー形式でご紹介します。今回は、(N)あい副理事長の神田健司さんです。（山森）



【団体の概要、仕事内容は？】

愛知県の北西部、岩倉市で児童発達支援センター事業を中心に放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、相談支援事業を運営。幼児期、学齢期の自閉症児を対象とした直接支援や地域支援体制作りをサポートさせて頂いています。

【現場支援で大切にしていることは？】

課題となっていることを障害特性から考え、支援の方向性を共有することです。想いの違いはあっても、軸になるのは本人の障害特性。事業所のスタッフ間だけでなく、保護者や先生方など、関わるメンバーの皆さんが、同じ方向性でポジティブに協働できるようになるといいなあ…と日々思い、実現を目指しています。

【受講生に持ち帰ってもらいたいことは？】

研修では講師の事例を聞いたり、グループワークで、他の受講生から、自分にはなかった視点や、アイデアに気づかされることがあると思います。その「気づき」。自閉症支援は、一人ではうまくいかないことが多く、様々な機会から得られる気づきが糧となるので、「煮詰まる」前に引き続き研修を受けたり、外部の支援者と交流して、楽しく学び続けて頂けたらと思います。

【団体からのお知らせやメッセージ】

(N)あいでは毎年1回、外部の方も参加頂ける研修会を開催しています。法人HP等でご案内しておりますので、ご興味ある方は是非ご参加ください。

(N)あいのHPは下記のURL、もしくは、右記二次元コードよりご覧ください。

<https://www.ai-npo.or.jp/>



■ベティ基金交流会開催報告

本法人が事務局を務めるベティ基金は、2014年12月、(株)RandTカンパニー出資により設立された。制度によらない障害者福祉活動を行うボランティア団体・NPO法人を応援し、地域の障害者支援に役立てて、地域交流につながる事を目的としている。

11月30日(土)ベティさんの家太田川にて、今年度助成金を受領した10団体12名が参加し、交流会を開催。それぞれの助成金活用報告を行った。

(株)RandTカンパニーの田中祐樹さんは、「受領した団体同士が繋がり、連携していくことで、今後の活動を発展させて欲しい。」と挨拶した。団体交流の時間では、障害者支援と居場所をテーマに参加者同士が意見交換を行った。

- ・障害児に対して、性教育をどう伝えていくか
- ・発達障害と不登校の関係性について
- ・当事者が居場所と思えることが重要である。
- ・イベント時に寄付を募るアイデアの共有

などが話し合わせ、団体同士で連絡先を交換する場面も見られた。

参加者からは、「皆さんの活動に対するパワーと想いが強く、エネルギーをたくさんもらった。自分達も取り組めるアイデアも伺うことができ、交流会で得たことを活動に活かしていきたい」「他の分野の活動を知ること社会全体の課題が見えてきた。」という声があった。

市町を超えて団体同士が交流を行い、共通の課題や問題意識につ



交流会参加者との記念写真

いて確認することができ、新しい活動を生み出していく後押しができた。最後に事務局より、ベティ基金の申請がより円滑に行えるよう、申請書類作成時の注意点や審査ポイントを団体へ説明した。今後もより多くの団体がベティ基金を活用して欲しい。(山森)

ベティ基金申請書類の注意点

- ・消耗品の個数、印刷部数などは、算出根拠を具体的に記入する。
- ・費用対効果がどれだけ見込める事業かを明記する。

■ 知多市職員研修 ～現場めぐり～

本法人では、地域課題に向き合い、解決するために活動する団体をめぐり、自分達にできることは何かを考えるための研修を企画・運営する。



研修の様子

10月28日、知多市入庁2年目職員15人を対象として、会場を市内にある常設の居場所、南粕谷ハウスの一角をお借りし実施した。居場所には、入れ替わり立ち代わり住民が訪れ、常連達がお茶を飲みながら話に花が咲き、昼食の準備にボランティア達が行き交う。そんな、居場所の日常を十分に感じる事ができたとの声があった。

本研修では、事前アンケートで、協働に対するイメージを聞いている。アンケートからは、協働とは「誰とやるかがわからない。」「きっかけがわからない。」そんな回答が多く見られた。

今回の研修では、(N)知多地域権利擁護支援センター(以下、(N)CKC)、知多市学校協働本部、南粕谷ハウスからお話をうかがった。

(N)CKC 今井友乃理事長から、協働のポイントは、協働相手と共通の景色を見ることにあるという。2003年に知的障害のある青年と余命宣告を受けたその母親の相談から、知多半島の法人後見制度はスタートした。当時(N)知多地域成年後見センターが立ち上がるまでには、知多半島5市5町の行政や社協と先進地と一緒に視察し、何度も丁寧な話し合いの場を設けた。公平性を求める行政と、目の前で困っている人に手を指しのべるNPOでは、思惑は異なるが、目指すゴールは同じであった。

協働相手をどうやって探すのか、学校協働本部のちたっこコーディネーター 今井秀明さんは「講座の先生を探すには、まずは南粕谷ハウスに相談する」と述べた。自分だけでは解決しないが、南粕谷ハウスには、様々な人財のネットワークが繋がっている。受講生の感想では、「業務で重層的支援体制整備事業や地域共生社会に関わるようになり、向き合い方や考え方に難しさを感じていた。自分の課だけでは解決が難しい。普段から周りの人、会話を大切にして連携していきたい」と感想を述べた。(安藤)

サポちた インフォメーション

会員のみなさまから集まる情報を掲載しています。お気軽に情報をお寄せください。

■若者サポートセミナー2024

「見えないSOS、伝わりにくい困りごと～不登校・発達障害への理解と支援～」をテーマに、だれもが笑顔で過ごせる環境づくりについて考えます。

●講師：森本陽加里さん（(一社)Focus on 代表理事）

〈日時〉2025年2月16日(日)13:30～15:30

〈会場〉知多市青少年会館 ホール

〈定員〉会場60人 / オンライン50人

〈対象〉発達障害や不登校、ひきこもりで困っている方やその家族、若者支援に関心のある方。参加費無料。

〈問合せ〉青少年会館内 事務局 ☎0562-36-2960

〈企画運営〉知多市若者未来応援事業実行委員会

〈申込期間〉1月7日～2月12日

右記の二次元コード、または電話で若者支援センター(青少年会館内)へ。



■愛光園 設立50周年記念式典「感謝のつどい」

法人のこれまでの50年をふりかえり、そして次の5年10年50年の未来を描くため、「継承と展望」をテーマに、感謝のつどいを開催いたします。

●スライド上映「50年を振り返る」

●対談「ひかりを見つめ続けて」

～共に生きてきた歴史、共に描く未来～

(先達)廣瀬治代 X(次世代)東千恵子(大府市発達支援センターおひさま 施設長)

〈日時〉2025年2月15日(土)

式典:10:00～ 歓談:12:00～13:00

〈会場〉あいち健康の森 プラザホール

(東浦町大字森岡字源吾山1番地の1)

〈問合せ〉愛光園法人本部 ☎0562-83-9835

〈申込方法〉「お名前」「所属・団体名」「連絡先」をご記入の上、FAX(0562-83-4344)にて送付いただくか、二次元コードより申込専用フォームからお申込みください。

〈申込締切〉2025年1月12日(日)



■高校生介拓アワード 2024

「介拓奨学生プログラムは、高校生が介護職員初任者研修を無料で受け、介護福祉分野で働きながら進学費用を貯めるプロジェクト。2024年度の参加者の発表の場です。

〈日時〉2025年3月8日(土) 13:30～16:00

〈会場〉日本福祉大学東海キャンパス4F

〈対象〉関心のある方であればどなたでも。参加費無料。

〈共催〉(公財)あいちコミュニティ財団/介拓PJ実行委員会

〈後援〉日本福祉大学

■【助成金情報】(公財)洲崎福祉財団 助成金

障害児・者に対する自助・自立の支援事業、および自立と福祉向上を目的とした各種活動。

1月6日より一般助成事業の申込受付を開始。詳細は、財団HPをご参照ください。

〈対象事業〉採択後、2025年6月1日開始、2025年11月30日までに終了する事業

〈対象団体〉営利を目的としない、法人格を取得している団体。また任意団体は、公益活動において3年以上の実績・証明があり、かつ2年以内に法人化する予定がある団体。難病患者会については、法人格の有無や活動年数などは不問。

〈申込締切〉2月15日(土) 消印有効

〈財団 HP〉<https://swf.or.jp/>

〈問合せ先〉(公財)洲崎福祉財団 事務局

問合せフォーム <https://swf.or.jp/contact/>

☎ 03-6870-2019 ✉ info@swf.or.jp



■【助成金情報】ベティ基金

(株)RandTカンパニーの出資による基金。制度によらない障がい者福祉活動を行う、ボランティア団体・NPO法人を応援し、地域の障がい者支援に役立ててもらうことを目的とする。

〈応募制限〉知多半島で活動し、障がい者支援を行う団体

〈助成時期〉5月 〈選考方法〉4月の審査委員会にて決定

〈募集期間〉1月1日(水)～3月31日(月)

〈HP〉<https://sapochita.wixsite.com/betty>

ベティ基金HP



〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階
Tel 0562-33-1631 Fax 0562-33-1743
Email spchita@ams.odn.ne.jp
HP <https://sunnyday-cfsc.ssl-lolipop.jp/>



特定非営利活動法人
地域福祉サポートちた



手づくりカフェ Ada-coda シェフ募集

日替わりで市民が自分の思い通りのランチをつくり、お客さんに提供します。食品衛生責任者が常駐するので、初めての人でも安心して料理に専念することができます。詳細はサポートちたまでお問い合わせください。 担当/落水